

## 里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	地域活性化
手法名	里山資源を用いた生業創出と地域と都市を結び付ける市場開拓
主体	福島県林業センター
背景(地域の課題)	山菜やキノコなどの里地里山の資源は、技術的に育成していくことが可能な方法が開発される一方で、流通面で課題を抱えており、価値を都市等につないで対価を得られる社会的仕組み作りが求められている。
手法／方策の詳細	<p>里山の山菜やキノコ等の資源は、農業に不利な土地で栽培が可能であるとともに、低い投資額、低い労働量、低い技術力でも実践可能であるため、主婦や退職者も取り組むことができ、また広葉樹整備の促進といった意味でも里地里山の現況に適ったものであると言える(図1)。</p> <p>一方で、市場が求める定時・定量・定性の流通システムへの対応や商品化までのブラッシュアップが課題である。そこで里地里山資源を都市等の外部とつなぎ、対価を得られるような産業としていくために、福島県では地域及び都市部・海外において下記の取り組みを実施した。</p> <p>①地域内で地域資源の価値と利用法を共有 山菜をテーマとした交流会を地域で開き、ワラビの加工・試食会、ウルの勉強会、販売体験などを実施。これら取り組みを契機にして生産団体を地域ごとに立ち上げブロック化し、市場の求める定時・定性・定量に間に合う生産体制を創出する。</p> <p>②地域資源の価値を地域外で客観的に評価(図2) 都市部のスーパーに定期的に販売するシステムを構築し、商品を地域の生産団体ごとに販売する取り組みを実践。販売に当たっては商品に関連した地域の特色や里山保全への寄与などの話題を盛り込んだものとし、人々の関心を引くような工夫を施した。</p> <p>③激戦地における商品のブラッシュアップ(図3) 里山資源を活用した海外市場への展開を企図した新商品を開発するとともに、プロモーション活動を実施。世界市場の激戦地における評価を確認するとともに、開発商品のブラッシュアップに役立てていく。</p>
手法・技術的視点	<p>(1)地域住民のライフスタイルや地域状況に合わせた山菜・キノコ栽培法の提示 里山資源利用の技術的側面だけでなく、地域特性や取り組む住民のライフスタイル等の社会的要因についても具体的に分析し、それに適う栽培方法を開発し実践している点が、他地域で取り組む際に参考になると考えられる。</p> <p>(2)流通市場に対応できる生産販売体制づくりのステップを構築 里山資源を流通させ販売商品として成立させるための地域及び都市部での取り組み内容と手順について具体的に提示している。里地里山活動による特産品等を流通・販売面させる際、取り組べき事項を検討する際、参考になるものと考えられる。</p>

福島県における里山のキノコを軸とした保全活用の運営体制と実行プロセス

実行プロセス・運営体制のイメージ



図・写真資料



上 : 図1  
左下: 図2



参考資料

里なび研修会in埼玉県パワーポイント資料(熊田淳氏)